

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【公開番号】特開2014-161415(P2014-161415A)

【公開日】平成26年9月8日(2014.9.8)

【年通号数】公開・登録公報2014-048

【出願番号】特願2013-33042(P2013-33042)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月26日(2015.6.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の始動条件の成立により遊技を実行し、該遊技が特別な結果となる場合に遊技者に特典を付与する特別遊技状態を発生し、特別遊技状態終了後に遊技者に有利な特定遊技状態を発生させる遊技制御を行う遊技制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技制御装置は、

遊技制御プログラムを記憶する遊技制御プログラム記憶手段と、

前記遊技制御プログラムにより所要の演算処理を行う演算処理手段と、

前記演算処理を行う際にデータが記憶されるレジスタと、

前記レジスタのうち、複数の汎用レジスタからなる第 1 のレジスタ群と、

前記第 1 のレジスタ群と同じ構成を有する第 2 のレジスタ群と、

前記第 1 のレジスタ群及び前記第 2 のレジスタ群の何れか一方を、アクセス可能に切り替えるレジスタ群切替手段と、

を備え、

前記遊技に関連する乱数には複数の種類があり、

前記乱数には、

前記第 1 のレジスタ群及び前記第 2 のレジスタ群の双方を用いて更新される乱数と、

前記第 1 のレジスタ群又は前記第 2 のレジスタ群の何れか一方のみを用いて更新される乱数と、

があることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記遊技制御装置には、

前記演算処理手段によって更新される情報が記憶される更新情報記憶手段が備えられ、

前記第 1 のレジスタ群及び前記第 2 のレジスタ群の何れがアクセス可能であることを示すレジスタ群切替情報設定領域が形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機

。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

しかしながら、特許文献 2 に開示されたような CPU では、遊技制御プログラムの実行に必要な汎用レジスタの数に制限があるため、複雑な遊技制御を行う場合には汎用レジスタが不足してしまうことがあった。そこで、特許文献 1 のように、PUSH 命令や POP 命令を用いてレジスタの値を退避、復帰する処理が必要となり、プログラムが複雑となり、コード量も増加してしまうという問題が生じていた。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記のような問題点を解決するためになされたもので、プログラムの複雑化及びコード量の増大を防ぐことを目的とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

本発明の代表的な一形態では、所定の始動条件の成立により遊技を実行し、該遊技が特別な結果となる場合に遊技者に特典を付与する特別遊技状態を発生し、特別遊技状態終了後に遊技者に有利な特定遊技状態を発生させる遊技制御を行う遊技制御装置を備えた遊技機において、前記遊技制御装置は、遊技制御プログラムを記憶する遊技制御プログラム記憶手段と、前記遊技制御プログラムにより所要の演算処理を行う演算処理手段と、前記演算処理を行う際にデータが記憶されるレジスタと、前記レジスタのうち、複数の汎用レジスタからなる第 1 のレジスタ群と、前記第 1 のレジスタ群と同じ構成を有する第 2 のレジスタ群と、前記第 1 のレジスタ群及び前記第 2 のレジスタ群の何れか一方を、アクセス可能に切り替えるレジスタ群切替手段と、を備え、前記遊技に関連する乱数には複数の種類があり、前記乱数には、前記第 1 のレジスタ群及び前記第 2 のレジスタ群の双方を用いて更新される乱数と、前記第 1 のレジスタ群又は前記第 2 のレジスタ群の何れか一方のみを用いて更新される乱数と、がある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

本発明の一形態によれば、プログラムの複雑化及びコード量の増大を防ぐことができる

。